
とある朝

璃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
とある朝

【Nコード】
N7449B

【作者名】
璃

【あらすじ】
タイトルの通りある人物のとある朝の話です

今は、朝：

直射日光が部屋を照らす。

窓ガラスに異様に眩しい光が映される。光が眩しいせいか思わず額の上に手を被ってしまう。

その時、光を浴びることがいまますます思う……。。

重い瞼を開ける気力がない。

”開けよう”と思ってもまた綴じてしまう。

”起きなければならぬ”

そうもう一人の自分が問いかけていてもどこかにかくれている自分の弱さのせいで行動に移れない。

”行動に移らなければならない。”
”弱い自分と真逆の行動をもとめているもう一人の自分が、心の奥まで入り込んで問いかけていく。”
心の中では、しつこく刻まれているせいか鬱陶うつとらしくも感じる。

朝起きようと心の底では考えていても、いやな睡魔が襲う。
睡魔をなくそうにもなくせない。睡魔を消したい気持ちがあっても消えない。

壁のように厚みのある布団から出ようという気がしない。
足をじたばたしては、『この場』(つまりベッド)から抜け出そう
として抜けれ無い……。

苦しい朝方

起きてからまた支度しなければならぬと考えることも余計につら
い。

嗚呼、気が重い。

無理に布団から出ようとするとするせいか布団の周りが乱れる。
布団もベッドの下に落ちていく。

その人物は、乱れたベッドの周りの布団を無視して
重々しい足を運んだ。

そして、階段を降りて支度を始めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7449b/>

とある朝

2010年10月22日00時51分発行